

見知らぬ誰かに「優しさ」をつなぐ税

倉敷市立福田中学校 2年 平田 瑞樹

テレビや新聞のニュースで税金の話を見聞きする時、よく目につくのは「増税で暮らしが苦しくなる」「税負担の大きさが問題だ」などという内容です。実際に、僕も税金にあまり良いイメージは持てていないように思います。スーパーやコンビニで買い物をする時に、税抜、税込の金額を見比べて、税金がなかったらなあ、なんて思ってしまうこともあります。では、税金は僕たちにとって、悪いものなのでしょうか。

僕の祖母は、再生不良性貧血という難病です。血液に含まれている白血球や赤血球、血小板といった必要な成分が減ってしまい、貧血や出血などの症状が起る病気です。症状を抑えて日常生活を過ごすためには、定期的な治療が欠かせません。

この作文を書くために、両親と税金についての話をしていたら、祖母の病気を治療できているのは税金のおかげでもあると言われました。日本では、医療費の一部を税金が負担しています。税金がなかったら、治療にはたくさんのお金がかかります。祖母が払う分もあるけれど、残りの分は税金です。つまり、見知らぬ誰かが払ってくれているとも言えるのです。

それに、僕の住む倉敷市では、小学校卒業までだった医療費無料が、今年の七月から、中学校卒業までに拡大されました。両親は、僕が風邪をひいたり、部活でケガをしたりすることがあるから、こういう取り組みはありがたいね、と話していました。僕は、税金を疎ましく思うのは、幸せな証拠なのではないかと考えました。病気にならなければ、医療費が大きな負担になることもわからないと思うからです。

税金とは、僕たちが優しい気持ちを持って暮らしていくために必要なシステムでないかと思います。見知らぬ誰かが病気で困っていたとしても、突然声をかけて病院に連れて行くのは難しいですが、税金があるおかげで知らない誰かが支払う医療費を減らすことができるのです。もちろん、誰かの優しさが自分に返ってくることもあります。

見えないものにお金を支払うのは、あまり気持ちの良いことではないかもしれませんが、でも税金は、確かに僕たちの暮らしを支えてくれています。税金そのものが問題なのではなくて、税金がどう使われているのかを知る機会が少ないことが問題なのではないでしょうか。

僕たちは商品を買う時、何を買うかをよく考えます。でも税金は、なんとなく支払われています。僕たちも、税金がどう使われているのか、そしてどう使われてほしいのかをもっと知り、考えるべきではないでしょうか。税金に関するポジティブな会話が飛び交う未来を、僕たちが作っていかなければいけないと思います。